

ドイツ語 (初級 B) 第 21 回 指示代名詞、不定代名詞、再帰代名詞と再帰動詞

範囲: 教科書 S. 51-54 (CD トラック 64-66)

《今回の基本例文》

69. Ich kann mich an die Sache nicht mehr erinnern. (CD66-5)

もう私はそのことを思い出せない。

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (1)、(話法の助動詞)]

70. Er freut sich auf den Ausflug. (CD66-1)

彼はピクニックを楽しみにしている。

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (2 a)]

71. Wir haben uns über Ihr Geschenk sehr gefreut. (CD66-2)

私たちはあなたの (あなたがたの) プレゼントをたいへん喜んでおりました。

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (2 b)、(現在完了 (haben 支配))]

72. Interessierst du dich für klassische Musik? (CD66-6)

君はクラシック音楽に興味があるのか?

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (3)]

授業第 20 回補足練習問題の解答

1. Welches Zimmer nimmst du? どちらの部屋を取るの?

2. Welchen Mann meinst du? どちらの男のことを言っているの?

3. Welches der beiden Bücher ist interessant?

2 冊の本のうちどちらがおもしろいですか?

* Welches [Buch] der beiden Bücher...のように、Bücher の単数形である Buch が省略されていると考えればよい (der beiden Bücher は複数 2 格)。

4. Mit welchem Zug kommen Sie? どちらの列車で来るのですか?

5. In welcher Stadt soll ich wohnen? 私はどちらの街に住めばよいのだろうか?

6. Was für einen Wagen fahren Sie? どんな車を運転されていますか?

* この fahren はおなじみの自動詞「(乗物で) 行く」ではなく他動詞「～ (車など) を運転する」。

7. Was für ein Gericht isst du gern? どんな料理を食べたいの?

8. Was für Blumen kaufen Sie der Frau? どんな花を奥さんに買ってあげるんですか?

9. Mit was für einer Feder schreiben Sie? どんなペンで書いているんですか?

10. In was für einer Welt leben wir? 我々はどんな世界に生きているのであろうか。

教科書第13課 A. 指示代名詞・不定代名詞 (S. 51)

〈代名詞について〉 (補足)

◇ すでに所有代名詞と人称代名詞を学んだ（教科書 S. 19、S. 26）が、ほか代名詞としては**指示代名詞**（dieser 型は学んだ）、**不定代名詞**（nichts、man、etwas などが例文や練習問題で登場している）、**再帰代名詞**、**関係代名詞**などがある。関係代名詞は教科書第15課に回し、今回は指示代名詞、不定代名詞、再帰代名詞の3つを学習する。

教科書¹ 指示代名詞 der

- ◇ 「これ、それ、あれ」を示す最も基本的な指示代名詞。英語の *this* や *that* に相当。
- ◇ 基本的な用法は、
 - ・「これ、それ、あれ/こいつ、そいつ、あいつ」と強く指示したいとき（人称代名詞に置き換えても成立する場合もある）
 - ・既知の名詞を受ける（同上）。
 - ・同一語の反復を避けるために用いる。
- ◇ 2格の **dessen, deren** は、所有代名詞や人称代名詞が使用できないときに使用する。後置ではなく前置する。

(例) Petra hasst Renate und deren Mann.

ペトラはレナーテとその（＝レナーテの）夫を嫌っている。

Petra hasst Renate und ihren Mann.

ペトラはレナーテと彼女の（＝ペトラ自身の）夫を嫌っている。

* 上の場合、所有代名詞は主語を受けると考えるのが普通である。

- ◇ 変化表としては、2格と複数3格のみを覚えればよい。ほかは定冠詞と同じ。
- ◇ **das** のみは性や数に関わりなく用いられる。 (⇒教科書 S. 12 の Übung 1)
- ◇ **der** のほかにも指示代名詞は存在する。これまで登場した指示代名詞をまとめると以下の通り。

	意味	変化	備考
der	「これ、それ、あれ」	ほぼ定冠詞と同じだが、2格と複数3格のみ特殊	名詞的のみ
dieser	「この、これ」	定冠詞類（dieser 型）	名詞的、付加語的
solcher	「そのような、あのような」	定冠詞類（dieser 型）	名詞的、付加語的

教科書² 不定代名詞 einer、keiner (S. 52)

- ◇ 基本的な用法は、
 - ・ **einer** なら「ある一人の人、ある一つのもの」、**keiner** なら「誰一人として～ない」として単独で使用する

・既知の不定冠詞つきの名詞を受ける。

* 「誰一人として～ない」と言う場合、*keiner* のほか、同じく不定代名詞の *niemand* (英語の *nobody*) を使用することがある。変化表は以下の通り。「誰か」の意味の *jemand* (英語の *somebody*) も同変化で、ほぼ定冠詞類の男性単数に準ずる。

1 格	<i>niemand</i>	<i>jemand</i>
2 格	<i>niemand(e)s</i>	<i>jemand(e)s</i>
3 格	<i>niemand(em)</i>	<i>jemand(em)</i>
4 格	<i>niemand(en)</i>	<i>jemand(en)</i>

** 「人の 3 格」を表す辞書記号の *jm.*、「人の 4 格」を表す辞書記号の *jn.*などがこの *jemand* の変化表に由来することはすでに学んだ。(⇒授業第 9 回配付資料 S. 2)

◇ 変化表としては、*ein* や *kein* は不定冠詞 (類) なのに対し、*einer* や *keiner* は定冠詞類 (*dieser* 型) の変化をすることに注意。

◇ これまで登場した不定代名詞をまとめると以下の通り。

	意味	変化	備考
<i>man</i>	漠然と「人」を受ける	1 格のみ	人
<i>etwas</i>	「なにかあるもの」	無変化	物
<i>nichts</i>	「なにも～ない」	無変化	物、 <i>etwas</i> の否定形
<i>einer</i>	「ある (一人の) 人」	ほぼ定冠詞類 (<i>dieser</i> 型)	人
<i>keiner</i>	「誰も～ない」	ほぼ定冠詞類 (<i>dieser</i> 型)	人、 <i>einer</i> の否定形
<i>jemand</i>	「誰か」	ほぼ定冠詞類 (<i>dieser</i> 型)	人
<i>niemand</i>	「誰も～ない」	ほぼ定冠詞類 (<i>dieser</i> 型)	人、 <i>jemand</i> の否定形
<i>jeder</i>	「みな」	定冠詞類 (<i>dieser</i> 型)	人

◇ 例文 *Wir nahmen an einem der Tische Platz.* は、複数 2 格の *der Tische* が不定代名詞 *einem* にかかり、「(複数の) 机のうちの一つ」の意味になる。英語の *one of the...* に相当。

教科書第 14 課 B. 再帰代名詞・再帰動詞 (S. 52)

教科書 1 再帰代名詞

◇ 主語と同じものを指す 3 格や 4 格の代名詞を再帰代名詞といい、基本形は *sich* である。英語の *oneself* に相当する。辞書などでは、3 格の *sich* を *sich³*、4 格の *sich* を *sich⁴* のように表記している (もちろん実際の文面では数字は書かない)。

◇ 3 人称のときは *sich* をそのまま使用するが、1 人称や 2 人称のときは人称代名詞と同じかたちを用いる。

* 英語の *oneself* を 1 人称や 2 人称で用いるときは *myself*, *ourselves*, *yourself*, *yourselves* に変化させるのと同様と考えればよい。

◇ 主語が複数形るとき3格目的語や4格目的語に再帰代名詞をとると、「互いに」の意味になることがある（相互代名詞的用法）。

（例）Wir helfen uns.

私たちは互いに助け合う。

Hans und Peter helfen sich.

ハンスとペーターは互いに助け合う。

* 本来の相互代名詞は **einander**。上記の例文にこちらを用いてもよい。

教科書2 再帰動詞 (S. 53)

◇ 3格目的語や4格目的語に再帰代名詞をとることで特定の意味を表す動詞を、**再帰動詞**という。英語でも再帰動詞は見られるが (*enjoy oneself* など)、ドイツ語では英語よりはるかにその数が多い。

◇ 再帰動詞としての用法を持つ動詞を辞書で引くと、それとわかる記号が記されており（**再帰**など）、不定詞句のかたちで再帰動詞としての用法が記述されている。**sich⁴ verspäten**「遅刻する」など。各自の辞書で確認しておくこと。

* 代表的な用法が再帰動詞である動詞でも、再帰代名詞をとらないかたちで使用する場合もある。例えば、教科書の例文にある **verspäten** は、もともと「～を遅らせる」という意味の他動詞であり、4格目的語の部分に再帰代名詞が入ることで、「自分を遅らせる」つまり「遅刻する」の意味になる。このため、一般の他動詞「～を遅らせる」としても使うことができる。

教科書3 再帰動詞の熟語

◇ 教科書の2や3、およびS. 53の Übung1で登場した再帰動詞の語彙をまとめると、以下の通り (*jn.*と*et⁴*は区別していない)。

再帰動詞（不定詞句）	意味
sich⁴ verspäten	遅刻する
sich⁴ beeilen	急ぐ
sich⁴ setzen	席につく
sich⁴ erkälten	風邪を引く
sich³ et⁴. wünschen	〈4格〉を望む
sich³ et⁴. überlegen	〈4格〉を熟慮する
sich⁴ an et⁴. erinnern	〈4格〉を思い出す
sich⁴ auf et⁴. freuen	〈4格〉を楽しみにしている
sich⁴ über et⁴. freuen	〈4格〉を喜ぶ
sich⁴ für et⁴. interessieren	〈4格〉に興味がある
sich⁴ um et⁴. kümmern	〈4格〉に気を配る

・これらのうち **sich⁴**をとる動詞は、ほぼ「〈4 格〉を〜する、〈4 格〉を〜させる、〈4 格〉に〜させる」という意味の他動詞であり、〈4 格〉の部分に **sich** (自分自身) が入ること
で、上の表の意味がつくられると考えればよい。

* **verspäten** (〈4 格〉を遅れさせる)、**beeilen** (〈4 格〉を急がせる)、**setzen** (〈4 格〉を置く)、**erkälten** (〈4 格〉を冷やす)、**erinnern** (〈4 格〉に思い出させる)、**freuen** (〈4 格〉を喜ばせる)、**interessieren** (〈4 格〉に興味を持たせる)、**kümmern** (〈4 格〉をわずらわせる)

・これらのうち **sich³**をとる動詞は、「〈3 格〉のために 〈4 格〉を〜する」が基本の意味であり、〈3 格〉の部分に **sich** (自分自身) が入ること、「(自分自身のために) 〈4 格〉を〜する」の意味がつくられると考えればよい。

・**sich⁴ setzen** は動作としての「席につく」。静止状態の「座っている」は **sitzen** なので、3・4 格支配の前置詞を用いる場合、前者は 3 格、後者は 4 格をとることになる。

(例) **Setzt dich bitte auf den Stuhl!**

どうぞその椅子に座りたまえ。

Peter sitzt neben seiner Freundin. (⇒教科書 S. 23 の Übung 3)

ペーターはガールフレンドの隣に座っている。

・**erinnern** は前置詞 **an** と結ぶ一般の他動詞としても使うことができ、**jn. an et⁴. erinnern** で「**jn.**に **et⁴.**を思い出させる」の意味となる。**jn.**のところに **sich⁴** (自分) を代入すると、「自分に **et⁴.**を思い出させる」、つまり「**et⁴.**を思い出す、記憶している」の意味になると考えればよい。

(例) **Er erinnert mich an meinen gestorbenen Bruder.**

彼は、私に死んだ兄弟を思い出させる。

(=彼を見ると、私は死んだ兄弟を思い出す。)

Ich erinnere mich an meinen gestorbenen Bruder.

私は死んだ兄弟のことを覚えている。

・**freuen** は「**jn.**を喜ばせる」として一般の他動詞としても使うことができる。

(例) **Es freut mich sehr, dass du endlich kommst.** (⇒教科書 S. 35)

君がとうとう来てくれたことが、私を喜ばせる。

(=君がとうとう来てくれて、私はうれしい。)

jn.のところに **sich⁴** (自分) を代入すると、「自分を喜ばせる」、つまり「喜ぶ」の意味になる。この場合、前置詞 **auf**+4 格を用いれば「未来のことを楽しみにしている」、前置詞 **über**+4 格を用いれば「現時点ですでに起きていることを喜ぶ」の意味になる。

(例) **Er freut sich auf die Weihnachtsferien.**

彼はクリスマス休暇を楽しみにしている (=時点はクリスマス休暇以前)。

Er freut sich über die Weihnachtsferien.

彼はクリスマス休暇に喜んでいる (=時点はクリスマス休暇中)。

- ・ **interessieren** は「*jn.*の興味を引く」として一般の他動詞としても使うことができる。

（例） **Das interessiert mich nicht.**

そのことは私の興味を引かない。

（＝私はそのことに興味がない。）

教科書 Übung 3 （CDトラック 66）

1～2. **sich⁴ freuen** と結ぶ前置詞がそれぞれ **auf** および **über** となっているので、上で説明した意味の違いに注意。

3. **niemand** は「誰一人として～ない」の意味の不定代名詞で、**keiner** とほぼ同じ（⇒本配付資料 S. 3）。**die Alte** は形容詞の名詞化（⇒教科書 S. 41）。

5. **nicht mehr** は否定表現で「もはや～ない」の意味。

7. この場合の再帰代名詞は「互いに」の意味。（⇒本配付資料 S. 4）

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 教員のウェブサイト：<http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>